

大統領選挙後にトルコ・リラ安が加速

トレンド転換には政策や外部環境などで何らかの変化が必要

2023年5月31日

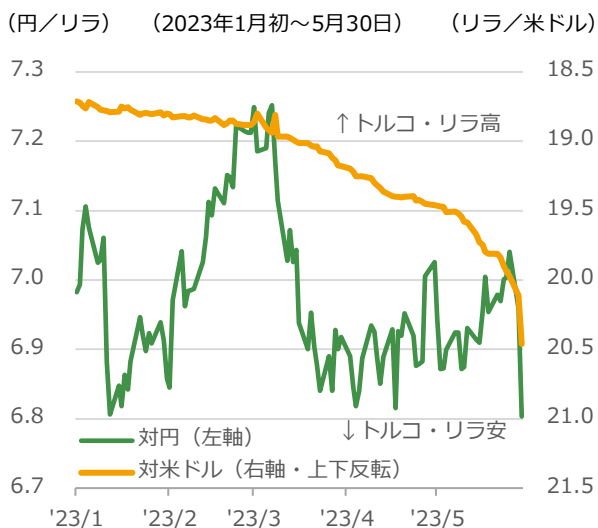
足元は米ドル高がリラ安を加速させている面も

トルコ・リラは米ドルに対し長期的に減価（リラ安）基調ですが、昨年10月ごろからはリラ安のペースが鈍化し、比較的落ち着いた状況でした。しかし、今月に入ると大統領選挙の進行とともにリラ安が強まり始め、28日の大統領選挙決選投票で現職のエルドアン氏が勝利すると、リラ安が加速しました。大統領選挙前は、野党候補のクルチダルオール氏が勝利すれば金融政策が引き締め方向に変化するとの思惑があり、リラ安に幾分歯止めがかかっていたとみられます。しかし、選挙結果が判明しその思惑が否定されるとともに、エルドアン氏が勝利演説で金利を下げればインフレも収まるとの自説を繰り返したと報じられたことで、これまでのリラ安基調に変化はないとの見方が強まり、リラ安に弾みがついたようです。

ただし、今月のリラ安は米ドル高の裏面という見方も少なからずできそうです。米ドルは、米国の利上げ打ち止め観測などによる米金利の低下で、3月から4月にかけて他通貨に対し減価（米ドル安）していましたが、5月に入ると利上げ継続の思惑などで、他通貨に対し増価（米ドル高）しています。この結果、対米ドルでのリラ安が今月は一層顕著になっていると考えられます。対円でみると、リラは年初からのレンジ下限程度までのリラ安に留まっており、対米ドルのリラ安とはだいぶ状況が異なっています。

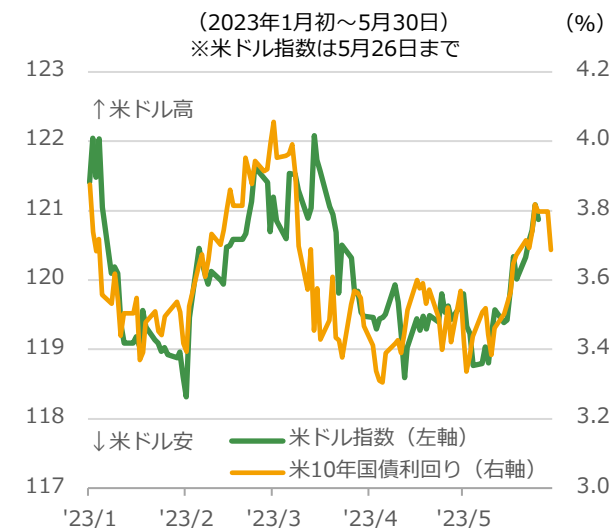
今後ですが、短期的には選挙結果の反映一巡や米ドル高の一服でリラ高の可能性もありますが、基調の転換にはトルコの金融政策や世界的な利上げ傾向などに何らかの変化が生じる必要があると思われます。

トルコ・リラの対円・対米ドルレート



(出所) ブルームバーグ

米ドル指数と米10年国債利回り



※米ドル指数はFRB（米国連邦準備制度理事会）算出

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management